

「要点を 1 行に」

試験に最短で合格するために、余分な文章を極限まで削ぎ落とし、

合格に必要な要点を中心に文章を構成しております。

要点がまとめられた短いセンテンスは、

あなたの記憶に要点を焼き付けるためのものです。

最短合格を目指すあなたの良きパートナーとして、

是非ご活用下さい。

濃縮！公認心理師 目次

第1章 公認心理師の職責

1 公認心理師の職責.....	01
-----------------	----

第2章 主要5分野における法律や制度

1 保健医療分野における法律や制度.....	05
2 福祉分野における法律や制度.....	09
2-I 児童.....	09
2-II 障害児・者.....	12
2-III 高齢者.....	14
3 教育分野における法律や制度.....	16
4 司法分野における法律や制度.....	20
5 産業分野における法律や制度.....	24

第3章 医学および精神医学

1 心身の機能と身体構造.....	29
2 心理的支援が必要な主な疾病.....	32
3 人生の最終段階における医療と心理支援.....	37
4 精神医学と精神病患者の歴史.....	39
5 精神疾患の診断.....	40
6 向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化.....	42
7 リスク・アセスメント.....	45

第4章 精神疾患

1 統合失調症.....	47
2 うつ病／双極性障害.....	48
3 不安障害／パニック障害／強迫症／適応障害 ／燃え尽き症候群／睡眠障害／身体症状症.....	50
4 知的障害／自閉スペクトラム症 ／注意欠如・多動症／限局性学習症.....	52
5 てんかん／チック症／分離不安症.....	

	／愛着障害／緘黙……………	55
6	心的外傷後ストレス障害(PTSD)／解離症……………	58
7	高次脳機能障害／認知症……………	59
8	摂食障害群／依存症……………	63
9	パーソナリティ障害……………	65

第5章 基礎心理学

1	心理学の成り立ち……………	68
2	精神分析の理論……………	70
3	脳・神経……………	72
4	知覚・感覚……………	75
5	認知・注意……………	78
6	記憶／プライミング／意味ネットワーク……………	80
7	学習……………	84
8	感情／動機づけ……………	86
9	パーソナリティ……………	89
10	知能……………	90
11	心理統計……………	92

第6章 発達心理学

1	身体的発達と精神的発達／発達心理学の研究法……………	99
2	言語の発達……………	103
3	愛着／母子関係……………	105
4	ピアジェの発生的認識論／心の理論……………	108
5	フロイトの発達論／エリクソンの発達論 ／アイデンティティ……………	110
6	成人期と老年期……………	112

第7章 社会／産業組織

1	社会心理学／集団……………	115
2	産業組織……………	120
3	ストレスとメンタルヘルス……………	122
4	キャリア理論……………	124

第8章 心理査定

- 1 心理査定の方法 127
- 2 パーソナリティ検査(MMPI/YG 性格検査
/MPI/向性検査/エゴグラム
/内田クレペリン精神作業検査) 129
- 3 不安尺度(MAS/STAI/GAD-7/LSAS-J), 強迫観
念
尺度(Y-BOCS), PTSD 尺度(CAPS/IES-R) 131
- 4 うつ尺度(SDS/BDI-II/HAM-D/EPDS/GDS-15), 気
分尺度(POMS2), 精神健康調査票(CMI/GHQ) ... 133
- 5 知能検査(ビネー式知能検査/ウェクスラー式
知能検査) 134
- 6 発達検査(津守式/遠城寺式/K 式/KIDS/NBAS
/JDDST-R/S-M/MCC/K-ABC II/ITPA) 137
- 7 発達障害の評価尺度(Vineland-II/AQ-J
/ADOS-II/PARS-TR/M-CHAT/ADHD-RS
/Conners 3/CBCL) 140
- 8 認知症の検査(HDS-R/MMSE/国立精研式
/COGNISTAT/N 式/MSQ/ADAS/ノイズ・
パレイドリア・テスト/CDR/NM スケール) ... 143
- 9 神経心理学的検査(BGT/TMT/WCST/ハノイの塔
/BVRT/三宅式/RBMT/RCPM/WAB/BADS

/ROCFT/CDT) 145

- 10 投影法の特徴 148
- 11 投影法の心理査定①
ロールシャッハ・テスト/バウム・テスト
/DAM-DAP/HTP テスト/家族画法 149
- 12 投影法の心理査定②
SCT/P-F スタディ/TAT/PIL テスト
/ソンディ・テスト 153

第9章 心理療法

- 1 行動療法 156
- 2 精神分析的心理学療法 160
- 3 人間性アプローチによる心理学療法 163
- 4 遊戯療法/家族療法 165
- 5 集団療法 168
- 6 ナラティブセラピー/短期療法 169
- 7 催眠療法/イメージ療法 170
- 8 芸術療法 172
- 9 日本の心理学療法 174

第10章 多職種連携と地域臨床

1	多職種連携と地域臨床……………	176
---	-----------------	-----

第1章 公認心理師の職責

1 公認心理師の職責

- 公認心理師の業務と役割として、教育および情報の提供も含まれる。
- 公認心理師は、要心理支援者と関係者、および国民が公認心理師の業務対象となり、心の健康の保持増進に寄与する。
- 公認心理師は、信用失墜行為の禁止、秘密保持義務があり、特に秘密保持義務違反には罰則規定がある。
- 公認心理師は、要心理支援者の支援に係る主治医があるときは、指示を受けなければならない。
- 公認心理師は、心の内面だけでなく、要心理支援者の心理状態を、直接および間接的に把握する。
- 公認心理師は、要心理支援者が生物的レベルから、心理的および社会的レベルまで安全な状態にあるかを確認する。
- 公認心理師の業務は、①心理的アセスメント、②要心理支援者への支援、③要心理支援者の関係者への援助、④国民の心の健康普及のための教育と情報提供、⑤保健医療、福祉、教育等の各分野との連携義務である。
- 公認心理師には「汎用性」が求められ、主要5分野（保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働）の特定の分野のみではなく、あらゆる分野に通底する資質を兼ね備えていることが期待される。
- 公認心理師は、自らの専門家としての知識・技術の限界を十分に自覚し、その範囲内において支援活動を行う。
- 公認心理師は、要心理支援者等の自立性を最大限に尊重し、インフォームド・コンセントを行う。
- インフォームド・コンセントは、職業倫理的にも心理的支援の実践上も、不可欠な要素である。
- 公認心理師は、人権を尊重し、国籍、人種、思想、信条、年齢、性別、および性的指向、社会的地位、経済状態などにかかわらず、すべての人をかけがえのない存在として尊重する。
- 公認心理師は、心理的アセスメントが不十分なまま、時を費やすだけの面接を繰り返してはならない。
- 心理的アセスメントの幅と精度の向上は、公認心理師が関係者連携において担うべき役割に含まれる。

- 多重関係が生じると、公認心理師とクライアントの関係に不可欠な中立性や客観性が侵され、利害の対立や偏見が生まれる恐れがある。
- 性的多重関係を含む多重関係は、心理職の職業倫理的問題では最も多く、重大な倫理違反である。
- 非性的多重関係を避けることが、性的多重関係の防止につながる。
- 公認心理師自身の専門的能力に関する判断は、「注意の標準」と「教育・訓練・経験に基づく専門的能力」をもとにした判断がある。
- 「注意の標準」は、特定の場合のもとでの過失の有無を判定するための標準である。
- 「注意の標準」も「教育・訓練、経験に基づく専門的能力」も、一般的な判断ではなく個別具体的な行為の判断である。
- タラソフ事件での判決は、患者に他害行為の恐れがある場合、犠牲者となり得る人に警告する義務を示した。
- タラソフ判決以後の判決は、犠牲者となり得る人を積極的に保護することを求めており、「保護義務」と呼ばれる。
- リファールは、相談者にとってより適切な相談機関に、相談内容の引き継ぎを行うことである。
- リファールの際は、複数のリファール先を提示し、相談者が自身で相談機関・専門家を決められるように支援する。
- 相談室での対応の内容は、詳細を記録する必要がある。
- 公認心理師が不在の時の対応については、マニュアルを作成しておく必要がある。
- 秘密保持の例外は、①自傷他害のおそれ、②虐待の疑い、③医療保険による支払い、④クライアントによる明確な開示要請、⑤クライアントのケアに直接かかわる専門家同士の話し合いである。
- 公認心理師は、クライアントに対して、情報の扱い方や他者との共有について説明を行い、クライアントが強制されることなく自由意思で同意する(あるいは拒否する)権利を保障する。
- 心理職に必要なコンピテンシー(技能)は、成長と課題、生涯学習やセルフケアを含め、職業的機能を高める活動である。

- コンピテンシーは、専門家はその業務を行う資格をもち、専門職の倫理観や価値観に基づき、適切な判断、批判的思考、意思決定ができることである。
- アドボカシーは、機能コンピテンシーの1つである。
- 職業的発達には、訓練と実践の水準を示し、基盤コンピテンシーと機能コンピテンシーが、どの水準にあるかで達成度を見定める軸となる。
- コンピテンシーの中核となるのは、反省的实践である。
- 反省的实践を促進するための代表的なものは、スーパービジョンである。
- スーパービジョンは集団で行うこともあり、仲間同士で支持的にかかわるピア・スーパービジョンも効果的とされる。
- セラピストの未解決の内的葛藤は、面接プロセスの妨げになる可能性がある。
- セラピストは、自分自身の問題や心理的特徴について理解することが必要である。
- ロネスタッド(Ronnestad, M.H.)とスコフホルト(Skovholt, T.M.)は、カウンセラーの発達を「6期モデル」で示した。
- 臨床家は、家族や友人を含むさまざまな対人関係を通して多くを学ぶが、なかでも、クライアントは臨床家の成長に大きく影響し、様々なことを教えてくれる教師となる。
- 自身の体験や様々なフィードバックに対するオープンネス(心理的開放性)が、臨床家の成長とウェルビーイングの鍵となる。
- ウェルビーイングは、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念である。(幸福の概念とも言われる)
- 優れた臨床的判断は、正確さ、スピード、効率性等よりも、深く関与し体験する姿勢、自身の判断についての謙虚さ等と関連している。

- リヒテンベルグ(Lichtenberg, J.W.)とグットイヤー(Goodyear, R.K.)は,生涯学習を,個人が職業的人生を通して知識・価値観・スキル・理解を身につけ,エンパワーメントする,継続的で支持的なプロセスと定義している。
- 継続訓練による継続学習には,「フォーマルな継続学習」「インフォーマルな継続学習」「偶発的学習」「ノンフォーマル学習」がある。
- 「フォーマルな継続学習」は,専門団体の正規研修であり,学習効果は,満足度やテスト等で評価される。
- 「インフォーマルな継続学習」は,専門誌や専門書を読んだりすることであり,講師や明確な枠組みがなく行われる。
- 「偶発的学習」は,業務を行うことが結果的に学習となっているものを指す。
- 「ノンフォーマル学習」は,受講生の立場に置かれるが,評価が与えられないものである。